

武蔵工業大学後援会誌

Mi-com

No. 10

1994-7



文化団体連合会主催'94ミュージックフェスティバルより



ごあいさつ

本年6月より金原前会長の後を受けて会長に就任いたしました。本後援会は、昭和63年12月に発足以来、6年目を迎えております。6年に亘る期間中、前会長はじめ役員・ご父母の皆様、また、武蔵工業大学の学長及び教職員の方々のご協力により、立派な後援会に発展して参りました。

本会の目的は、武蔵工業大学の教育方針に則り、1.父母と教職員との連携を密にする。2.子弟の修学、学生生活への援助。3.大学の発展に寄与。4.会員相互の親睦等があります。現在の会員数は4,236名で在学生の約85%の方々の加入を頂いております。活動内容の主なものを挙げて見ますと、

1. 学生課外活動への援助
2. 学生生活の指導
3. 緊急奨学金制度
4. 大学と父母との連絡会の開催
5. 会誌の発行

武蔵工業大学後援会

会長 飯田進也



等々があります。とくに、家計事情の急変した学生への奨学金制度は、今年度より新設されたものであります。今後もこれまでの路線を踏襲し、更に充実した後援組織にしていきたいと考えております。

科学技術立国を掲げている日本において、社会が理工系学生に求めている資質は、国際的視野に立った独創的な思考と探求心及び協調的な業務完遂能力にあると思います。そのためには、基礎的な専門知識の修得のみでなく、課外活動を通じて学び取る多くの事があると思います。後援会としては、上記のような視点に立って、ご子弟が悔いのない有意義な学生生活が送れるよう、大学とともに側面より援助していきたいと思っております。そのためにも本会を更に充実、発展させていくことが肝要です。今後ともご父母の皆様方のご協力、ご援助を賜りますようお願い申し上げます。

平成6年度 評議員会が開催される

武蔵工業大学後援会の平成6年度評議員会が平成6年5月21日(土)午後2時45分から大学の3号館312教室において役員、評議員73名(委任出席20名)の出席のもとに開催されました。

評議員会は金原淑郎会長の開会の挨拶で始まり、役員および今年度新しく評議員に就任された19名の方々が紹介された後、議事に入った。議事は事務局から第1号議案から各議案ごとに提案説明があり、その後、この説明にもとづいて審議され採決の結果、新しく導入される「緊急奨学金制度」の実施を含めた次の議案が原案の通り可決し、承認されました。



▲金原会長のあいさつ



▲熱心な審議風景



▲大学との懇親会

武蔵工業大学後援会 平成6年度 評議員会

平成6年5月21日(土)

武蔵工業大学 312教室

1. 開会の辞 —— 金原会長 ——

2. 報告事項

平成6年度後援会入会者数および会員数について

3. 議事

第1号議案 平成5年度 事業報告について

第2号議案 平成5年度 決算報告について

第3号議案 平成6年度 事業計画案について

第4号議案 平成6年度 予算案について

第5号議案 平成6年度 役員候補者について

4. その他

会務の処理に関する事項

5. 閉会の辞 —— 宮崎副会長 ——

金原淑郎前会長に感謝状を贈呈

このたび開催された平成6年度の評議員会において、会長職を6年間にわたり務めてこられました金原淑郎氏が退任されることになり、その真績に対して後援会より感謝状(盾)と記念品が贈呈されました。

金原前会長は、武蔵工業大学後援会の設立に貢献をされ、そして、初代会長として会の発展に永い間努力され、その組織の基礎を築かれました。



▲金原前会長(左)へ感謝状を贈る飯田新会長

平成5年度 事業報告

(1) 事業

1. 正課外教育援助

- 「課外活動に対する補助制度」による援助を、59団体にを行った。

主な援助対象

- (1) 学生団体連合会へ課外活動援助金として1,200万円を援助。
- (2) 体育祭、水泳大会、'93ミュージック・フェスティバル、Mi-Techテニストーナメント、MIT祭等の学生行事に対して援助。
- (3) ラグビー部の全国地区対抗戦の出場に対して援助。
- (4) 学生団体連合会リーダーズ研修会（12月および2月）へ援助。
- 大学と学生団体の共催行事のスプリングフェスティバル'93（新入生歓迎行事）への援助。
- 大学の学生部とワンダーフォーゲル部による「大学周辺の散歩道」の募集企画に対して援助。
- 学生団体、グループによる、鳥人間コンテスト（航空研究会）、ソーラーカーレース（材料力学研）、全日本ロボット相撲大会、およびエコノパワー自動車競技大会等の学外競技大会参加に対し援助。
- 学生部の委員による学生団体の合宿激励と、各団体への合宿援助金の支給。（20団体）
- 留学生の合宿研修会、見学会等各種の行事へ援助。
- 大学の課外活動賞（学長賞、学生部長賞、課外活動奨励賞）のうち課外活動奨励賞の副賞（盾）に本会の名を刻して贈呈。
- 在学中、課外活動に貢献した学生を選考し、22名に「後援会長賞」を授与し、表彰する。
- 文化講演会の概要集「転換期を生きる」を各学生団体に配布。

2. 「大学と父母との連絡会」への援助と協力

- 全国26会場で開催された「大学と父母との連絡会」の費用の一部（318万円）を負担。
- 東京会場において、飯田理事が後援会を代表して挨拶。（平成5年9月）地方においては評議員の方々に協力をいただいた。

3. 大学行事への協力

- 平成5年度入学式に金原会長が来賓として出席

し祝辞。（平成5年4月）

- 学校法人五島育英会傘下の後援会合同懇親会に大喜多・今井両会計監査が出席。（平成5年6月）
- 第10回海外研修セミナー（ヨーロッパ研修旅行）に対する援助。（平成5年8月）
- 防災教室に参加の学生に援助。（平成5年10月）
- 平成5年度学位授与式に金原会長が来賓として出席し、「後援会長賞」の授与および祝辞。（平成6年3月）

4. 学生厚生援助

- 体育会の本部に所属団体の共用機器としてパーソナル・コンピューターを購入援助。
- 留学生のため日本語教材ビデオ等の購入。
- 学生の情操教育の一助として五島記念館に美術品を贈呈。

5. 会誌の発行

- 後援会の会誌「Mi-Com」8号（平成5年7月）、9号（平成5年12月）刊行し、会員へ送付。

6. マイテック・フレッシュマン・キャンプの準備

- 平成5年9月および平成6年2月にフレッシュマンキャンプ（新入生研修行事）の準備のため学生団体幹部による現地視察と研修を行い、これに援助。

7. 入会案内等の発送

- 平成5年度入学者の内未入会の父母宛に再度入会案内を送付。（平成5年7月）
- 平成6年度入学予定者（推薦および自己推薦）の父母宛に入会案内。（平成6年2月）
- 平成6年度入学予定者（A方式、付属、B方式）の父母宛に入会案内。（平成6年3月）

8. その他

- 校歌のCDを配布
大学の歴史（英文）と校歌を覚えてもらうため学生団体（放送会、吹奏楽団、マンドリンクラブ、グリークラブ）と教職員の協力を得て作成した校歌のコンパクトディスク（CD）を新入生へ配布する。（平成5年4月）
- 大学へ「後援会長賞」の候補者の推薦依頼。

(2) 運 営

1. 理事会

平成5年5月15日(土)

- 平成5年度評議員会提出案件の審議。

平成5年11月13日(土)

- 平成5年度の(1)事業経過、(2)入会者数、(3)「大学と父母との連絡会」の結果に関する審議。
- 後援会による「奨学金制度」案の審議。
- 平成6年度の主要会議日程、役員候補者選考、入会案内書送付等に関する審議。なお当日は理事会終了後、顧問の古浜庄一学長のほか大学関係者との懇談会が行われた。

2. 評議員会

平成5年5月29日(土)

- 平成4年度の事業報告、決算報告および、平成5年度の事業計画案、予算案の審議。
- 平成5年度の役員選出、委嘱について。なお、当日は評議員会に先立って学内の見学会を行い、評議員会終了後、大学の教職員との懇談会を開催した。

3. 後援会の事務担当者(アルバイト)の採用

- 後援会の事務担当者として職員(アルバイト)を採用。(平成5年6月～平成6年3月)

4. 会計監査

平成6年5月7日(土)

- 大喜多、今井両会計監査により平成5年度の会計監査を実施。

平成6年度 後援会会員数

●工学部

平成6年4月28日現在

学科 学年	機械	電気 電子	電子 通信	建築	土木	経営	合計
1年生	257 ^(名)	108 ^(名)	116 ^(名)	136 ^(名)	124 ^(名)	154 ^(名)	967 ^(名)
2年生	251	169	141	128	111	142	942
3年生	234	173	129	113	101	145	895
4年生	263	204	158	128	122	154	1,029
合 計	1,005	726	544	505	458	595	3,833

●大学院

専攻 課程	機械	生産 機械	電気	建築	土木	経営	原子力	合計
修士 (1, 2年)								
博士 (3, 4, 5年)	74 ^(名)	46 ^(名)	138 ^(名)	62 ^(名)	35 ^(名)	35 ^(名)	13 ^(名)	403 ^(名)

■平成5年度「後援会長賞」の受賞者22名を表彰される

●受賞者一覧

今年度の「後援会長賞」の受賞者22名が去る3月19日挙行された学位授与式において表彰されました。

これは昨年より新たに設けられた制度であり、在学中に課外活動において多大の功績があった卒業生を授賞するもので当日は金原会長から代表者に表彰状と副賞が手渡されました。



氏 名	出身高校	所属クラブ	進 路 先
織田 陽平 (機 械)	県立 鎌 倉	文化団体連合会本部長	武蔵工業大学大学院
川崎 源八 (機 械)	県立 宇和島東	硬式野球部主将	斎久工業株式会社
下山 祐司 (機 械)	私立 玉川学園高等部	航空研究会、機親会会長	株式会社トーマンエレクトロニクス
竹野下太輔 (機 械)	私立 広島城北	MIT祭実行委員長	株式会社日本クライメイトシステムズ
村里 紀英 (機 械)	私立 武蔵工業大学付属	グリークラブ部長	武蔵工業大学大学院
村山 昌之 (機 械)	県立 横浜翠嵐	自動車部部長	荏原インフィルコ株式会社
石渡 正 (電気電子)	県立 金 井	硬式野球部副将	六興電気株式会社
綱島 秀人 (電気電子)	県立 百 合 丘	バスケットボール部主将	日清製粉株式会社
藤木 知 (電気電子)	私立 茗溪学園	ラグビー部主将	鹿島建設株式会社
海野 徹 (電子通信)	県立 会 津	準硬式野球部主将	オリンパス光電子株式会社
鳥居 力 (電子通信)	県立 横須賀	グリーンホーンテニス同好会会長	武蔵工業大学大学院
西沢 貴之 (電子通信)	私立 松商学園	放送会会長	日本放送協会
田中 淳雄 (建 築)	都立 八王子東	バドミントン部主将	安藤建設株式会社
中村 英基 (建 築)	県立 春 日 部	体育会会長	武蔵工業大学大学院
森澤 秀樹 (建 築)	都立 山 崎	バレーボール部主将	三井ホーム株式会社
植田 真司 (土 木)	私立 浅 野	体育会副会長	武蔵工業大学大学院
折田 勇夫 (土 木)	私立 武蔵工業大学付属	学生団体連合会副委員長	武蔵工業大学大学院
杉本 昌由 (土 木)	県立 葎 山	柔道部主将	武蔵工業大学大学院
小関 貴洋 (経 営)	私立 武蔵工業大学付属	アメリカンフットボール部主将	三菱電機情報ネットワーク株式会社
中山 良一 (経 営)	都立 小 松 川	フォルトローネテニス同好会会長	日本バイオラッドボリス株式会社
西部 吉輝 (経 営)	県立 越 谷 北	硬式庭球部主将	株式会社プリチストン
濱野 晶 (経 営)	私立 武蔵工業大学付属	文化団体連合会副本部長	昭和電線電纜株式会社

平成5年度 決算書

平成5年4月1日～平成6年3月31日

科 目	平成5年度予算	平成5年度決算	差 異	備 考
(収 入 の 部)	(円)	(円)	(円)	
1. 会 費	47,500,000	48,350,000	850,000	● 新入生、在学生
2. 雑 収 入	3,500,000	2,667,039	△ 832,961	
3. 前 年 度 繰 越 金	40,956,617	40,956,617	0	
収入の合計	91,956,617	91,973,656	17,039	
(支 出 の 部)				
事業費	40,000,000	40,044,309	△ 44,309	
4. 正課外教育援助費	27,200,000	26,753,695	446,305	
5. 父 母 連 絡 会 費	3,000,000	3,183,428	△ 183,428	● 父母との連絡会（全国26カ所）
6. 大 学 行 事 協 力 費	1,800,000	2,070,285	△ 270,285	● スプリングフェスティバル、テニストーナメントへの援助他
7. 大 学 厚 生 援 助 費	3,000,000	2,993,593	6,407	● 体育会へ機器援助、五島記念館美術品
8. 会 報 発 行 費	3,500,000	3,548,350	△ 48,350	● Mi-Com No.8、No.9
9. 新 入 生 歓 迎 行 事 費	1,500,000	1,494,958	5,042	● フレッシュマンキャンプ下見
運営費	7,300,000	6,030,438	1,269,562	
10. 事 務 費	2,000,000	1,308,584	691,416	● アルバイト代、事務委託費
11. 会 議 費	1,000,000	978,285	21,715	● 役員会、評議員会
12. 印 刷 ・ 通 信 費	2,000,000	1,828,423	171,577	● 通知、案内の郵送、印刷代
13. 旅 費 ・ 交 通 費	1,300,000	1,102,310	197,690	● 地方評議員の旅費
14. 備 品 費	500,000	469,997	30,003	● ワープロ、ポラロイドカメラ、フォトビジョン
15. 雑 費	500,000	342,839	157,161	● 慶弔費・謝礼
予備費	1,500,000	0	1,500,000	
特別会計	8,300,000	8,300,000	0	
16. 後援会基本積立	4,300,000	4,300,000	0	
17. 記念事業費積立	2,000,000	2,000,000	0	
18. 学生事故対策援助費積立	1,000,000	1,000,000	0	
19. 特別課外活動援助費積立	1,000,000	1,000,000	0	
小 計	57,100,000	54,374,747	2,725,253	
次年度繰越金	34,856,617	37,598,909	2,742,292	
支出の合計	91,956,617	91,973,656		

● 正課外教育援助費内訳

科 目	平成5年度予算	平成5年度決算	差 異	備 考
正課外教育援助費	27,200,000 ^①	26,753,695 ^②	446,305 ^③	● 「課外活動に対する補助制度」(資料別添)の費用(ほか
課外活動援助費	24,300,000	23,881,977	418,023	
(イ)学団連援助金	(12,000,000)	(12,000,000)	(0)	● 学団連執行委員会、体育会・文化団体連合会各部、MIT祭実行委員会、吹奏楽団、放送会、新聞会
(ロ)一般援助金	(10,500,000)	(10,483,041)	(16,959)	● 課外研究、対外活動、情報活動、環境向上活動、用具整備、特別企画、地域活動、学団連什器・備品購入、ラグビー部全国大会への援助
(ハ)学生行事援助金	(1,800,000)	(1,398,936)	(401,064)	● スプリングフェスティバル反省会、体育祭、学団連リーダーズキャンプ他への援助
学 生 顕 彰 費	700,000	445,226	254,774	● 課外活動賞、後援会長賞等
学生生活指導援助費	2,200,000	2,426,492	△ 226,492	● 学生団体の顧問・技術指導者の合宿指導、留学生の交流指導、研修・見学指導

平成6年度 事業計画

(1) 事業

1. 正課外教育援助

学生の課外活動のより活性化をはかるため、学生団体および学生行事等に対して援助を行う。

(1) 課外活動援助

「課外活動に対する補助制度」による援助を行う。

○ 学生団体連合会への援助

(学団連執行委員会、体育会、文団連、MIT祭実行委員会、放送会、吹奏楽団、新聞会)

○ 一般援助

(課外研究、対外活動、環境向上活動、情報活動、用具整備、特別企画、地域活動、活動奨励等)

○ 学生行事への援助 (全学的行事)

MIT祭、体育祭、水泳大会、スプリングフェスティバル、ミュージック・フェスティバル、ソフトボール大会、Mi-Techテニストーナメント、公開企画、特別行事等に対する援助。

上記の援助は援助希望団体(個人)の申請にもとづき、大学学生部の意見を受けて決定される。

(2) 学生顕彰

- 課外活動賞の内、課外活動奨励賞の副賞を贈呈。「後援会長賞」は課外活動に貢献のあった学生約20名を学位授与式において表彰し、副賞を贈呈。

(3) 学生生活指導

- リーダー教育、顧問・技術指導者の合宿指導、海外からの留学生との交流、学生団体の指導、および研修等に対する援助。

2. 「大学と父母との連絡会」の開催

- 大学と共催し、全国各地において「大学と父母との連絡会」を開催する。今年度は東京を含め全国26ヶ所で開催する。東京会場は平成6年9月25日(日)予定。

3. 「役員、評議員と大学教職員との懇談会」の開催

- 平成6年5月21日(土)の評議員会の後、大学から学長、理事、主任教授、学生部委員、事務局管理職が出席。

4. 大学行事への協力

- 大学の主催する行事への協力。

- 大学で開催する学生、教職員対象の「文化講演会」等の行事への援助。

5. 学生厚生援助

- 学生の厚生施設への援助。(9号館および学生利用施設)

6. 後援会緊急奨学金制度

- 今年度より会員の家計の急変により学業の継続が困難な子弟に対して授業料相当額(全額または半額)を援助する制度を新しく制定し、実施する。

7. 会報の発行

- 後援会の会報誌「Mi-Com」を年2回発行し、学内の動きを父母に連絡すると共に会員相互の親睦をはかる。

8. フレッシュマンキャンプ(新入生研修行事)への援助

- 平成6年4月に実施の新入生対象のフレッシュマンキャンプへの援助。

(2) 運営

1. 会議

理事会 2回 平成6年5月14日(土)、11月5日(土) 予定

評議員会 1回 平成6年5月21日(土)

2. 後援会業務を担当する事務担当者(アルバイト)の採用

「武蔵工業大学後援会誌ネーミング」

(マイコム)
Mi-com

後援会誌は会員各位への情報伝達(Communication)のツールです。

武蔵工業大学の愛称「MI-TECH」との関連づけで、武蔵工業大学後援会誌のネームを「Mi-com」といたしました。

平成6年度 予 算

平成6年5月21日

科 目	平成6年度予算	備 考
(収入の部)	(円)	
1. 会 費	48,350,000	● 新入生の加入者
2. 雑 収 入	3,000,000	● 利息収入
3. 前 年 度 繰 越 金	37,598,909	
収入の合計	88,948,909	
(支出の部)		
事業費	44,970,000	
4. 正課外教育援助費	27,700,000	
5. 父母連絡会費	3,200,000	● 全国各地で年1回大学と共催
6. 大学行事協力費	1,800,000	● 文化講演会、CDの製作ほか
7. 学生厚生援助費	3,000,000	● 厚生設備等への援助(9、18号館等)
8. 奨学資金費	2,000,000	● 奨学金制度に伴う予算
9. 会報発行費	3,600,000	● 後援会広報誌の作成(2回)
10. 新入生研修行事費	3,670,000	● 全学的に行うフレッシュマンキャンプに係る援助
運営費	7,500,000	
11. 事務費	2,000,000	● アルバイト代、事務委託費、消耗品費
12. 会議費	1,200,000	● 役員会、評議員会
13. 印刷・通信費	2,000,000	● 通知、案内の郵送、印刷代
14. 旅費・交通費	1,300,000	● 地方評議員、役員の旅費
15. 備品費	500,000	● 後援会関係の備品、什器
16. 雑費	500,000	
予備費	500,000	
特別会計	4,300,000	
17. 後援会基本積立	2,300,000	● 将来の事業拡大のため
18. 記念事業費積立	2,000,000	● 大学創立記念事業協力
19. 学生事故対策援助費積立	0	(学生事故対策として5百万まで積立完了)
20. 特別課外活動援助費積立	0	(大規模な対外遠征援助5百万まで積立完了)
小 計	57,270,000	
次年度繰越金	31,678,909	
支出の合計	88,948,909	

● 正課外教育援助費内訳

科 目	平成6年度予算	援 助 対 象
正課外教育援助費	27,700,000 (円)	
課外活動援助費	24,300,000	● 「課外活動に対する補助制度」の費用ほか
(イ)学団連援助金	(12,000,000)	● 学団連執行委員会、体育会・文化団体連合会各部、MIT祭実行委員会、吹奏楽団、放送会、新聞会
(ロ)一般援助金	(10,500,000)	● 課外研究、対外活動、情報活動、環境向上活動、用具整備、特別企画、地域活動
(ハ)学生行事援助金	(1,800,000)	● 体育祭、MIT祭、水泳大会、ソフトボール大会、公開企画、特別行事、Mi-Techテニストーナメント等
学生顕彰費	900,000	● ボランティア、課外活動奨励賞、課外研究、後援会長賞等
学生生活指導援助費	2,500,000	● リーダー教育、学生団体の顧問・技術指導者の合宿指導、留学生の交流指導、研修・見学指導

平成6年度 役員・評議員

役員 (敬称略)

会 長	飯 田 進 也	電子通信 (新)	理 事	永 田 博 司	経 営 (新)
副 会 長	伊 藤 泰 郎	経 営 (再)	理 事	黒 崎 浩	機 械 (新)
副 会 長	相 場 敏 彦	電 気 (新)	理 事	三 好 陽 二	機 械 (新)
理 事	東 野 成 元	機 械 (再)	理 事	横 山 良 一	経 営 (新)
理 事	直 江 正 彦	電気電子 (再)	会計監査	今 井 治	土 木 (再)
理 事	豊 田 康 郎	建 築 (再)	会計監査	木 下 健 介	経 営 (新)
理 事	市 村 稔	機 械 (新)			
理 事	佐 藤 安 宏	土 木 (新)	顧 問	古 浜 庄 一	学 長
理 事	堂 本 雄 司	電子通信 (新)	顧 問	佐 藤 三 禄	教 授
理 事	八 木 高 志	土 木 (新)			

評 議 員 (敬称略)

阿 部 和 夫	東 京 都	生産機械 (再)	秋 本 恭 伸	東 京 都	機 械 (再)	奥 田 清 夫	沖 縄 県	経 営 (再)
松 沢 賢 治	東 京 都	生産機械 (再)	家 里 直 明	新 潟 県	機 械 (再)	須 藤 彰	山 形 県	経 営 (再)
安 藤 健 爾	愛 知 県	機 械 (再)	三 浦 義 昭	埼 玉 県	機 械 (再)	武 野 正 幸	東 京 都	機 械 (新)
中 村 誠 司	東 京 都	電 気 (再)	笠 原 威	神 奈 川 県	電気電子 (再)	大 道 裕 宣	神 奈 川 県	機 械 (新)
村 口 弘 明	神 奈 川 県	電 気 (再)	加 地 誠 輔	愛 知 県	電気電子 (再)	真 壁 敏 昭	神 奈 川 県	機 械 (新)
赤 松 和 人	岡 山 県	建 築 (再)	近 藤 啓 介	静 岡 県	建 築 (再)	鮫 島 光 晴	神 奈 川 県	電気電子 (新)
奥 村 隆 俊	静 岡 県	機 械 (再)	田 口 尚 二	秋 田 県	建 築 (再)	山 下 浩 之	栃 木 県	電気電子 (新)
大 司 秀	東 京 都	機 械 (再)	羽 瀧 一 郎	東 京 都	経 営 (再)	宇 野 信 義	神 奈 川 県	電気電子 (新)
木 滑 孝 一	新 潟 県	電 気 (再)	仲 山 省 三	岡 山 県	経 営 (再)	安 田 善 次	愛 知 県	電気電子 (新)
板 野 醇 一	神 奈 川 県	経 営 (再)	中 田 敏 雄	石 川 県	経 営 (再)	伊 藤 穆	兵 庫 県	電子通信 (新)
徳 永 勝 利	東 京 都	機 械 (再)	代 永 衛	東 京 都	経 営 (再)	島 森 義 光	埼 玉 県	電子通信 (新)
米 山 敏 夫	岡 山 県	機 械 (再)	木 村 郷 美	神 奈 川 県	機 械 (再)	平 樹 健	東 京 都	電子通信 (新)
穂 苅 弘 造	神 奈 川 県	機 械 (再)	菱 沼 紀 昭	神 奈 川 県	機 械 (再)	久 保 内 操	高 知 県	建 築 (新)
大 竹 進 一	北 海 道	電気電子 (再)	伊 藤 英 雄	宮 城 県	機 械 (再)	曾 慶 健 一	群 馬 県	建 築 (新)
川 村 隆	神 奈 川 県	電気電子 (再)	岩 元 莞 二	神 奈 川 県	電気電子 (再)	村 中 一 成	山 口 県	建 築 (新)
出 海 滋	東 京 都	電気電子 (再)	後 藤 正 昭	兵 庫 県	電気電子 (再)	小 原 眞 吾	東 京 都	土 木 (新)
紫 村 誠 一	神 奈 川 県	電子通信 (再)	安 波 政 弘	茨 城 県	電気電子 (再)	工 藤 公 健	北 海 道	土 木 (新)
塙 昭 彦	神 奈 川 県	電子通信 (再)	竹 内 哲 夫	高 知 県	電子通信 (再)	五 艘 章	千 葉 県	土 木 (新)
西 山 廣 一	東 京 都	建 築 (再)	福 井 健	東 京 都	電子通信 (再)	伊 藤 正 樹	神 奈 川 県	経 営 (新)
飯 尾 宏 允	大 分 県	土 木 (再)	濱 田 恵 亮	宮 崎 県	建 築 (再)	加 藤 友 之	東 京 都	経 営 (新)
久 保 田 滋	東 京 都	経 営 (再)	今 井 正 一	広 島 県	土 木 (再)	山 本 善 彦	東 京 都	経 営 (新)
小 笹 滋 彦	石 川 県	経 営 (再)	小 林 伸 年	神 奈 川 県	土 木 (再)			

平成5年度「課外活動に対する補助制度」による援助

後援会の事業の一つに「課外活動に対する補助制度」があります。これは学生が自主的な財源確保の努力をしつつも補助を受けることにより、特色ある活動や、より高レベルの活動が可能となり、キャンパスライフの充実に貢献することを期待して設けられているものです。

■第1回分(平成5年6月)

No.	団体名	学生代表者名	顧問名	活動の内容	補助金額(円)
1	学生団体連合会	大川 雅充	星野 重夫	平成5年度学生団体連合会への援助金として	12,000,000
2	文化団体連合会	三島潤一郎	土井 雅博	'93 Music Festivalの開催に対して 鳥人間コンテスト応援ツアーの企画に対して	450,000 500,000
3	バスケットボール部	三枝 弘平	小玉 克巳	理工系リーグ1部優勝に対して	200,000
4	洋弓部	高木 英夫	安味 貞正	第4回全日本学生アーチェリー東日本大会に出場に対して	30,000
5	アメリカンフットボール部	佐藤 智之	杉山 好弘	第7回東西工業大学交流戦出場に対して	200,000
6	スキー部	菊池 容崇	浅野 鉦世	第20回全日本学生岩岳スキー大会本選出場に対して	150,000
7	山岳部	菊地 輝彦	橋本 正明	保険料の一部として補助	60,000
8	剣道部	藤沢 貴紀	木村 富夫	部創立35周年記念版の「武剣」の作成に対して	50,000
9	ゴルフ部	木藤 宅弥	西野 忠	部への昇格に対して	50,000
10	鉄道研究部	目黒 光彦	佐藤 三祿	鉄道研究部主催の講演会開催に対して	20,000
11	パッチャーセブン	永田 好伸	押川 恵一	Super Gimmick Special in Club CITTA Kawasaki出場に対して	50,000
12	演劇部	河崎 貴謙	中添 淳	春期公演に対して	100,000
13	航空研究会	西畑 浩憲	稲村 二彦	第17回鳥人間コンテスト選手権大会の出場に対して	900,000
14	写真部	森 隆之	野崎 喜嗣	写真展「六月場所」の開催	50,000
15	マイクロコンピュータクラブ	藤本裕一郎	松山 実	展示会への準備費用として	50,000
16	天文研究会	澁川 壮史	片田 敏行	展示会への準備費用として	50,000
17	スカイスports同好会	林 克也	小林 光一	大会出場に対して	50,000
18	水素自動車研究同好会	金原 英彦	山根 公高	水素自動車及び内燃機関の整備構造の学習会開催	40,000
19	ソーラーカー同好会	福北 博史	吉野 利男	ソーラーカーレース(秋田)の出場に対して	300,000
20	機親会メカトロニクス部	高田 佳彦	杉山 好弘	第5回全日本ロボット相撲大会出場の為	150,000
21	機親会エコラン班	中野 聖	杉山 好弘	本田宗一郎杯第13回ホンダエコノパワー燃費競技全国大会出場	200,000
22	電気研究会	本多 智行	光井 英雄	年間の活動に対して	50,000
23	経工会	永田 仁	村原 貞夫	年間の活動に対して	50,000
	合計	23団体			15,750,000

■第2回分(平成5年10月)

No.	団体名	学生代表者名	顧問名	活動の内容	補助金額(円)
1	学生団体連合会	大川 雅充	星野 重夫	武蔵工業大学応援用横断幕の製作	240,000
2	体育会武道系団体	上森 博之	門馬 伯行	武道系6団体ナイトラリーの開催	170,000
3	新聞会	庄司 公房	高田 達雄	新聞会の備品等の購入	110,000
4	アイスホッケー部	八巻 陽一	師岡 利政	第42回関東大学アイスホッケー選手権大会Cグループ準優勝	100,000
5	弓道部	佐藤 秀憲	伊藤 泰郎	弓道部創部30周年記念行事	200,000
6	ヨット部	西山 靖之	光井 英雄	アランフェスIIIによる試乗会	200,000
7	ワンダーフォーゲル部	加藤 宏幸	安味 貞正	「散歩道」コースの募集企画	250,000
8	水泳部	千葉 尚彦	土井 雅博	附属高水泳部との親睦競技会	35,000
9	アメリカンフットボール部	小関 貴洋	杉山 好弘	スポッターシステムの購入(サッカー部との共同申請)	400,000
10	マンドリンクラブ	上門 裕誠	高岡 京	第31回定期演奏会及び関東学生マンドリン連盟主催コンサートに対して	50,000
11	ハワイアンクラブ	高島 竜一	吉岡 靖夫	第20回記念定期演奏会	30,000
12	パッチャーセブン	綿貫 敬介	押川 恵一	Super Gimmick Special in Club CITTA Kawasaki 2rd Music Questで総合2位	150,000
13	天文研究会	澁川 壮史	片田 敏行	MIT祭の出展(プラネタリウム)	40,000
14	モーターサイクル部	藤岡 啓介	岩崎 征人	1993年CLUB MANロードレースシリーズへ参戦	30,000
15	写真部	森 隆之	野崎 喜嗣	学内写真パネルの掲出	20,000
16	演劇部	河崎 貴謙	中添 淳	秋期公演の開催に対して	50,000
17	武蔵工大みこし連	山口 裕文	土井 雅博	秋の玉川神社の祭礼への参加	60,000
	合計	17団体			2,135,000

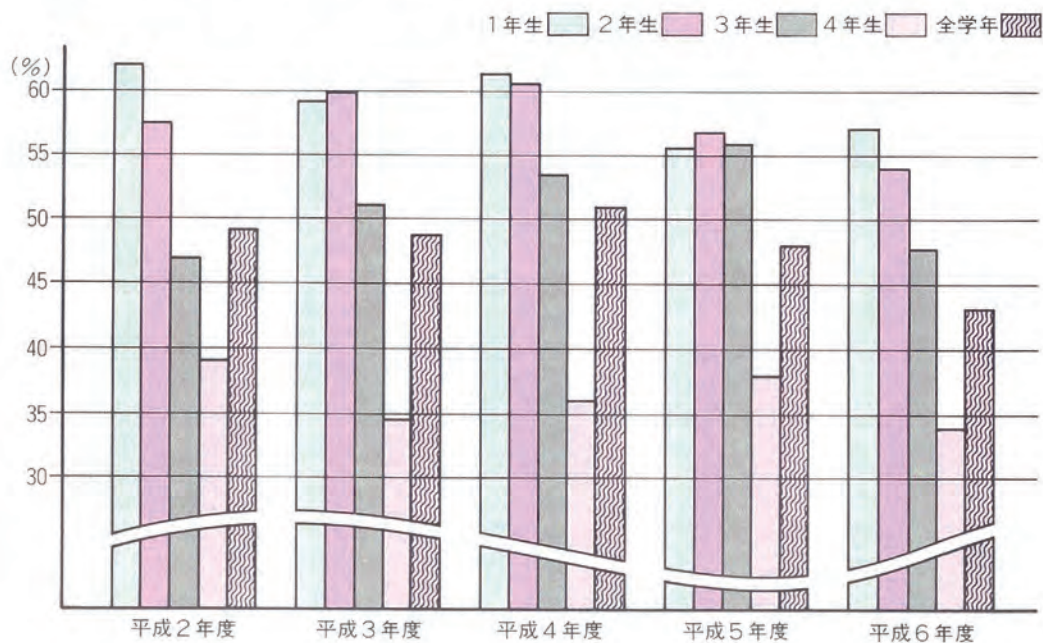
第3回分(平成5年12月)

No.	団体名	学生代表者名	顧問名	活動の内容	補助金(円)
1	モーターサイクル部	森田 公昭	岩崎 征人	'93MFJロードレース選手権シリーズ出場他	50,000
2	写真部	森 隆之	野崎 喜嗣	MIT祭における写真展開催	50,000
3	特許アイデア研究部	市川 悟	浅見 克敏	日本学生アイデア連盟作品展示会に対して	200,000
4	パッチャーセブン	永田 好伸	押川 恵一	明治学院白金祭BAND BATTLE'93入賞に対して他	50,000
5	鉄道研究部	目黒 光彦	佐藤 三祿	「STEEL CAR学祭号」の印刷・製本費	70,000
6	硬式庭球部	上山 宏樹	門馬 伯行	関東理工科大学硬式庭球連盟幹事校として	200,000
7	柔道部	稲葉 康一	神山 光男	第25回四大学対抗柔道大会優勝に対して	50,000
8	洋弓部	高木 英夫	安味 貞正	全日本学生フィールドアーチェリー選手権大会に出場	100,000
9	ソフトテニス部	永易 稔丈	横山真一郎	関東学生秋季リーグ戦11部昇格に対して	30,000
10	準硬式野球部	塗師 健司	安田 忠郎	オール新関東大学選抜チーム九州親善野球大会に対して	60,000
11	天文研究会	澁川 壮史	片田 敏行	MIT祭参加、出展の為	50,000
12	如学会建築三研究会	石井 立樹	大須賀常良	卒業設計展示会(世田谷美術館・六本木)に対して	200,000
13	MIT祭実行委員会	新堀 秀樹	安藤 信好	MIT祭の企画に対して	1,000,000
	合計	13団体			2,110,000

第4回分(平成6年2月)

No.	団体名	学生代表者名	顧問名	活動の内容	補助金額(円)
1	学生団体連合会	中野 徹哉	星野 重夫	腕章、バッジ製作のため	100,000
2	放送会	草野 憲昭	今井 章久	機材購入のため	180,000
3	新聞会	庄司 公房	高田 達雄	パソコンの購入に対して	500,000
4	グリークラブ	春田 和城	井出 正男	第34回定期演奏会に対して	50,000
5	ワンダーフォーゲル部	越智栄次郎	安味 貞正	事故防止対策のリーダー講習会	100,000
6	アイスホッケー部	安藤 健一	師岡 利政	体験アイスホッケー教室の開催	40,000
	合計	6団体			970,000

●過去5年間の在学生のクラブ加入率



マイテック・フレッシュマンキャンプに 1,518名が参加し、無事終わる。

▼ 壮観バス36台。準備OK！

今年4月入学の新入生を対象にしたフレッシュマン・キャンプが4月20日、21日の両日1泊2日の日程で鬼怒川温泉「あさやホテル」を中心に行われました。

従来6学科が別々に実施していた研修行事を合同で行うもので、新入生と教職員および上級生との交流をはかることや、各学科の内容を理解すること等を目的に実施されたものです。

2日間の主なスケジュールは、別表のとおりですが、オープニングセレモニーから始まった行事は、大きなトラブルもなく2日間の日程を終了しました。新入生にとっては学科内容を理解したり、また多くの教職員や学友との交流によって、今後の学生生活への不安の解消となったことでしょう。

なお、この行事に対して後援会では、上級生の参加費用を援助しました。



▲大移動作戦開始前の乗務員さんたちの真剣な打ち合わせ



▲東武ワールドスクエアなら世界旅行もひとつとび



▲本学卒業生の焼き物の店元を見学



▲土木工学科は川治ダム見学



▲約1500余名をのみ込む巨大ホテルに到着

▼フレッシュマン・キャンプの目玉企画／建築家黒川紀章氏による講演会



▲学科別プログラムではゲームを行ったところも……

日程

第1日(4月20日)………

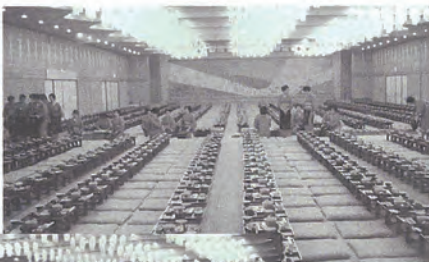
- 8:45 秋葉原集合
- 9:15 秋葉原からバス36台に分乗して出発
- 12:00～12:50 「あさやホテル」に到着
- 13:00～13:30 オープニングセレモニー
(古浜学長の挨拶など)
- 13:30～14:40 黒川紀章氏の講演会
テーマ:「共生の時代」
- 15:45～ 学科別プログラム
- 18:30～20:30 懇親パーティー
- 21:00～ 学科別プログラム
(グループミーティングなど)
- 24:00 就床

第2日(4月21日)………

- 7:00 起床
- 7:30～ 8:30 朝食
- 8:30～10:00 バス乗車・学科別のプログラムに出発
(工場・施設見学など)
- 17:00～19:00 東京到着・解散



▲豪華商品に懇親パーティーは盛り上がる



◀朝食準備。ただ今フル稼働中



▲夜のミーティング? それとも……



▲あつ、カメラだあ!



▲みんなで食べる朝食はウマイ!!

"キャンパストピックス"



「武蔵工業会」および「五島育英会傘下学校後援会」等の懇談会に後援会役員が出席

平成6年6月4日、武蔵工業大学の卒業生の団体である武蔵工業会（会員4万名）の総会後の懇親会に後援会から飯田会長および相場副会長が招待されて出席し、関係者と有意義な懇談の機会を持つことができました。また平成6年6月25日学校法人五島育英会傘下の11の学校に設置されている後援会（PTA）の役員合同懇談会に武蔵工業大学後援会より飯田会長をはじめ副会長、会計監査が出席して、飯田会長が参加者を代表して挨拶を行いました。

柔道部が全日本理工科学生柔道優勝大会で準優勝！！

6月26日（日）講道館で開催された全日本理工科学生柔道優勝大会において、本学柔道部が第3回大会以来実に32年ぶりという準優勝を成し遂げました。同部は、一時は部員数が減少し存続も危ぶまれましたが、ここ数年武道系団体の人気が復活し、昨年入部した女子部員も含め日々稽古に励んできました。今回はその努力が実り、部員一同で勝ち取った涙、涙の準優勝に大きな拍手を送りたいと思います。



文化講演会について

本学では教養教育の一助として平成3年度から工学の分野にとらわれず様々な講師を招き文化講演会を行ってきましたが、このたび、これまでの講演内容をまとめ『転換期を生きる―7人が語る現代』という本を実務教育出版から出版いたしました。掲載されている講師は、利根川裕、平山健太郎、栗本慎一郎、堤清二、島脩、島桂次、黒川紀章、以上7氏で、いずれも社会の第一線で活躍中の方ばかりです。後援会では、これらの講演会に共催しており、平成6年度の文化講演会も第1回の田丸美寿々氏、第2回の立松和平氏を迎え、盛況に終了しています。この講演会は「開かれた大学」の文化活動として、地域社会にも門戸を開いていますので、是非一度のぞいて見ていただきたいと思います。（なお、平成6年度文化講演会はあと2回を予定していますが、現在講師・日程とも未定です。）



▲講演中の田丸美寿々氏

五島記念館へ後援会から美術品を寄贈

今年3月4日竣工された五島記念館（3号館）に、後援会から学生の情操教育の一助となるよう、美術品の寄贈が行われました。

美術品は、国際的な彫刻家・柘植猛志氏の制作による大理石の彫刻（H38.5×W38.0×D23.0cm）―序曲―で、今年7月中旬に記念館の正面入口の右側に展示される予定です。



ハンドボール部が東日本インカレに出場！！

理工系大学の中では、数年来実力ナンバーワンの座を譲らない本学ハンドボール部が、この春の関東学生リーグ戦で全8部（72校）中の3部において全勝優勝し、続く2部との入替戦では、明星大学を22対21で破り、見事2部昇格を果たしました。また、このことが評価された同部は、8月8日から青森市で各地区から選抜された32大学が集まって行われる東日本インカレに出場することが決定しています。本学にとって初出場となる大きな大会ですが、今上昇気流にのるハンドボール部の活躍に期待したいところです。



目覚めよ頭脳！！発明大作戦

毎年恒例となりつつある全学生・教職員対象のイベントコンテストが、今年は特許アイデア研究部が名乗りをあげたことにより、アイデアコンテストとして実現しました。特許アイデア研究部は、自分で考えたアイデア作品の試作や発想法・特許法について勉強するというユニークな活動を行っています。今回のコンテストではクラブのPRも兼ねて、広く一般学生らにアイデアを募り、優秀な作品には特許の申請までしてしまうという企画です。発明という難しいようですが、誰にでもできる工学的なもの、日用品、文具などなんでもOKと言うことで、果して実用新案となるような大傑作が生まれるか、今から秋のMIT祭での結果発表が楽しみです。

後援会の「緊急奨学金制度」がスタートする。

後援会では会員の子弟の修学と学生生活の向上をはかることをその主旨の一つとしていますが、今年度の評議員会において懸案事項となっていた「緊急奨学金制度」の導入が承認されました。

これは会員(家計支持者)の不慮の死亡等により家計が急変し、学業を継続することが困難な子弟(在学学生)に対して授業料相当額を貸与することにより経済援助を行うものです。(以下の規定の全文を掲載)

武蔵工業大学後援会緊急奨学金規定

(主旨)

第1条 本奨学金制度は武蔵工業大学後援会会則第3条により会員の子弟の修学と学生生活の向上をはかることを主旨とする。

(目的)

第2条 会員(家計支持者)の不慮の死亡等により家計が急変し、学業を継続することが困難な子弟(在学学生)に対して貸付金(奨学金)により経済援助を行うことを目的とする。

(奨学生)

第3条 前条の目的により奨学金の貸与を受ける者を奨学生という。

(奨学生の条件)

第4条 奨学生は工学部および大学院の在学学生で後援会会員の子弟とする。

(申請の方法)

第5条 奨学金の貸与を希望する者は、所定の申請書類に連帯保証人1名を付してクラス担任教員又は指導教授を通して申請するものとする。

(申請の事由)

第6条 奨学金に申請できる事由は次の各項による。
イ. 家計支持者が死亡した場合。
ロ. 家業が倒産した場合。
ハ. 天災による被災を受けた場合。
ニ. その他、上記に準ずる事由で選考委員会で認められた場合。

(選考の方法)

第7条 奨学生の選考は後援会長、副会長(2)、理事(2)、学生部長、副部長および学生部委員(1)により組織された選考委員会において行う。

(選考の時期)

第8条 奨学生の選考は原則として毎年6月および11月の年2回行う。
但し、緊急の場合は臨時に行うものとする。

(選考の順序)

第9条 選考の順序は次によるものとする。
イ. 申請者に貸与継続者がいる場合は優先して採用するものとする。
ロ. 申請者の中から奨学金の必要度の高い学生から採用する。

(金額と人数)

第10条 奨学金の金額は授業料の全額または半額とし、貸与者の総数は毎年10名以内とする。

(奨学生の更新)

第11条 奨学生が引き続き奨学金の貸与を希望する場合は、所定の更新手続を行い申請するものとする。

(資格の喪失)

第12条 奨学生が在学中に次の各項に該当した場合はその資格を失う。
イ. 大学および大学院の規則に違反し、または学生の本分に反する行為があった場合。
ロ. 学年途中で退学した場合。

(奨学金の返還)

第13条 奨学金は奨学生が卒業(修了)後、一定の期間内に全額指定の期日までに返還するものとする。

(返還の方法)

第14条 奨学金の返還は次によるものとし、その方法については別に定める。
イ. 貸与された奨学金は卒業(修了)1年後から10年以内に返還するものとする。但し、無利息とする。
ロ. 奨学生としての資格を失った場合はその事由により返還の方法を決める。

(その他)

第15条 この規定にない事象が生じた場合は理事会において協議し、決定するものとする。

(規定の改廃)

第16条 本規定の改廃は評議員会の議を経て会長がこれを行う。

付則 この規定は平成6年5月21日より施行する。

●今年度の奨学生として3名が採用される

後援会の緊急奨学金制度は5月21日の評議員会において決定され、募集を開始しました。

その結果、募集説明会に6名が参加し、奨学金の申請は5名から提出されました。6月18日の選考委員会において慎重審議を行った結果、次の3名が奨学生として採用されました。

平成6年度 後援会奨学生採用者氏名

機械工学科 4年 中山 仁悟 授業料半額

機械工学科 4年 上村 直樹 "

機械工学科 1年 富田由紀夫 "

クラブ活動紹介⑨

先ごろ六大学戦（第22回六大学対抗水泳競技大会）を行い、現在は7月の下旬に行われる関東学生選手権大会に向けて猛練習中の「水泳部」と、今年からマッキントッシュを導入し、さらに充実した紙面作りを続ける「新聞会」……。今回は、武蔵工大の中で今が旬のこのふたつの団体をとりあげ、その活動内容をご紹介します。

【水泳部】大雨の中、部員一丸となって戦った六大学戦



水泳はマラソン以上に孤独なスポーツだと言われています。レースでは個人個人の記録が重視されますし、何よりも水中には、まわりで応援する者の声が届きません。しかしだからといって、チームワークと無縁のスポーツかといえば、決してそうではないようです。

6月19日、武蔵工大プールで第22回六大学対抗水泳競技大会が行われました。大会決行も危ぶまれる大雨のなかでしたが、武蔵工大水泳部員たちは持ち前のチームワークを発揮し、開催校の重責をきちんと果たしました。その健闘の模様をふりかえりながら、彼らの日頃の活動についてご紹介しましょう。

最悪のコンディションのなか、ベストを尽くす

大会運営校として満を持して臨んだ六大学戦ですが、あいにくの大雨。この悪天候のなか、無事に大会が進行するかどうか不安なのでしょう。大会本部や選手受付テントで仕事をする武蔵工大選手たちは、開会前から緊張の色が隠せません。

「六大学戦の開催校は、うちと埼玉大学との持ちまわり。今年で22回目と、歴史のある大会なので、失敗は許されないんですよ。だから何カ月も前から綿密な計画をたてて準備をしてきたんです」

と、語るのは大会運営の責任者を務めた松寄敦志君（機械工学科3年）。六大学戦に毎年参加するのは武蔵工大の他に、埼玉大、慶応大、東京理科大、東京電機大、法政大に所属する在学4年以内の学生たち。残念ながら今回は東京電機大が欠場とのことで、実質“五大学”での大会となりました。

10時の開会式が済んだあと、競技はさっそく400mメドレーリレーからスタート。一段と雨足が強くなり、水面が白く見えるほどの状況でしたが、各泳者とも力強い泳ぎを見せてくれました。

「大会運営もしなければならぬので、いろんな面に気を配らなければならないけど、とにかく自分の参加する種目には全力を尽くすように！うちの選手たちにはそう発破をかけました（笑）」

と、主将の鳥居伸彦君（機械工学科3年）は語ります。今までの練習で培ってきたものを全部発揮しなければ……これは全部員共通の心情だったでしょう。というのも今大会は、武蔵工大部員にとって、7月に行われる関東学生選手権大会の前



▲気配り牽引者の鳥居伸彦君



▲部内随一の実力派、松寄敦志君



▲先輩にすべてオマカセの今林雅俊君

哨戦でもあるからです。「関東学生選手権大会ではいい成績をあげて、4部から3部リーグ入りを果たしたいんですよね。その前にこの大会で手応えをつかまないと……」（鳥居君）

多い人で6レースも出場するというハードスケジュールでありながら、大会運営という“裏方”の仕事もこなさなければならないとあって、武蔵工大水泳部の控えテントは、それこそでこまいの忙しさ。しかし、自軍の選手が泳ぐとなると声を枯らしながらの声援を欠かしません。「泳いでいるときは実際には声援は聞こえないんですが、雰囲気でわかるんですよ。信頼感といいますか、絶対に先輩たちは応援してくれてるはずだ、なんて（笑）」（今林雅俊君・経営工学科1年）

結局、今大会では武蔵工大は総合成績で4位。しかし、今林



ベストタイム更新中。今泉賢一君▶

水泳部
顧問：土井雅博(助教)
主 幹：鳥居伸彦(機械工学科3年)
部員数：34名(内女子4名)



▼練習日の笑顔

君が100m背泳で、土木工学科3年の今泉賢一君が200m平泳ぎで、それぞれ2位を獲得しました。「ベストタイムが出たらひょっとすると、なんて思っていたんで、嬉しかったですね。去年は入賞もできなかったんで……」(今泉君)

最悪の天候、しかも大会運営というハンデがありながら、全選手がベストを尽くした武蔵工大水泳部。その証拠に、閉会式に臨む部員の表情には、一様にすがすがしさが感じられました。

チームワークが一番の武器

六大学戦では、団結力の強さと、アットホームな雰囲気(?)が他校に比べて際立っていた武蔵工大水泳部。普段はどんな感じなのでしょう?

そこで大会後のある日、練習におじゃましてみました。

「見てもわかるとおり、練習中から声をお互いにかけて、励ましながらやっています。陸の上でタイムを測っている私が声を出すのはもちろんなんですが、選手も自分が泳いでないときは大きな声で他の部員を応援してますよ」と語るのはマネージャーの坂本真由美さん(建築学科2年)。

中川麻紀さん(経営工学科4年)は「活がありますよね。女子部員がいるっていうのがいいのかも(笑)。それはともかく、やるときはやるってところが、うちの部の一番いいところだと思います」と語ります。



▲泳ぎはもちろん、料理も得意
中川麻紀さん



▲水泳部の百科辞典
坂本真由美さん

また後輩に対する先輩たちの指導にも定評があり、今まで水泳部を経験したことのない人でも、必ず立派な選手として育てあげてしまうとか。たとえば上原太一君(建築学科1年)の場合がそのいい例。入部するまで25mしか泳げなかったのに、先の六大学戦には100m自由形の選手として出場す

るまでになりました。「うちの部は、やる気がある人ならだれでも大歓迎。泳げる、泳げないは関係ないんです。実際、先輩がたのなかにも、まったくの未経験者から選手になった、なんて人がいっぱいいますよ」(鳥居君)

最後にハードな練習が勉強の妨げになっているのでは? と聞くと、みんな口を揃えて「大丈夫」との答え。「時間があるとなついつい遊んでしまうけど、最初から限られた時間だと考えれば、かえって勉強にも身が入るんですよ。不思議ですけど。だからかえって、部活やってない人より、いろいろな面で充実してるのでは……」(松寄君)。

水泳という個人プレーのスポーツでありながら、団結力では他のクラブに決してひけをとらない武蔵工大水泳部。このチームワークの強さで、近い将来、きっと念願の3部リーグ昇格を果たすことでしょう。



▲春まではズブの素人
上原太一君

顧問のひとりごと

土井 雅博(機械工学科 助教授)



水泳部の顧問になって今年で14年目です。別に学生時代水泳部に在籍していたというわけではないんですが、田舎が三重県で、すぐそばに海がありましたから、割合と水泳は好きなんです。スクーバ・ダイビングのライセンスも持っていて、いま、水泳部の他に潜水科学研究会のほうも顧問を兼任しているんです。

水泳部の歴史は結構長いんですよ。昭和35年卒業の方が第一期部員ですから、かれこれ37年くらいになりますか。昔は水泳部はあっても、泳ぐプールがなかったんですよ。私が顧問になった頃もプールがなくて、あちこちのプールをよく借り歩いていました。多摩川園の湧き水を利用したプールで部員一同痺れながら泳いだり(笑)、また東工大のプールを、向こうの部員の練習が終わるのを待って使わせてもらったりしました。まさにジブシー水泳部でしたね。でも不思議なことに、プールを借り歩いていたその頃のほうが、今よりも成績がいいんですよ。知らず知らず、ハングリーな精神が培われたのかも知れませんがね。

今の水泳部のいいところは、部員の結束が非常に固いということでしょうか。ほどよく上下関係の節度が保たれているためか、大会などでは非常に強い団結力を発揮するんです。もちろん練習以外では、わきあいあいとやっているようですが、先輩の後輩に対する面倒見もいいみたいです。

個人で記録にトライする辛さと、チームワークの大切さを経験する水泳部の4年間は、学生たちにとって卒業後の大きな武器になると思います。別に記録ばかりを重視しているクラブではありませんので、水泳に興味のある方でしたら、どんどん入部してもらいたいです。

武蔵工大スピリット溢れる新聞づくりを



2年近く休会していた新聞会は活動を再開してまだ日が浅いのですが、同会が発行する「MIT-WORK」は、武蔵工大キャンパスライフに欠かせない情報ツールとして今やすっかり定着しています。大学内のトピックスや、会員の趣味(?)が反映された連載コーナーなど、“武蔵工大生気質”が満載のこの新聞は、いったいどんな編集作業を経て作られているのでしょうか?

先達のいない“無”の状態から 武蔵工大を代表する一大メディアに急成長

現在「MIT-WORK」は、年に14回の発行。長期休暇や、試験期間中をのぞけば、だいたい隔週に一回発行の計算になります。いろいろとカリキュラムが詰まっている理工系の大学において、この発行ペースは十分称賛に値するものでしょう。「ここに至るまでが大変な道程でした。とくに苦労したのがネタ探し。新聞会が活動を再開したことを知らない学生が多く、学内の情報がなかなか集まらなかったんです。だから学生課へ頻繁に出かけ、職員の方々に“何かネタありませんか”ってしょっちゅう聞いてました。それこそしつこいくらいに(笑)。体育会幹部の方たちに頼んで、各クラブから大会スケジュールなどをまとめた書類を毎月持ってきてもらったりしました」

と、語るのは会長の庄司公房君(電子通信工学科3年)。実は彼こそ、休会状態だった新聞会をここまで育てあげてきた中心人物なのです。

「失敗も多かったです。新入生歓迎号に大学の電話番号を間違えたまま印刷し、急遽その部分だけをマジックで塗り潰して発行したこともあります。



▲会の中心人物、頭張屋の庄司公房君

さすがに最近ではそんな失敗はなくなりましたが……。会員一同、編集作業にかなり慣れてきたんでしょね。後援会のご好意によりマッキントッシュが入ったおかげで、作業自体も楽になりましたし……。昔はワープロ原稿をハサミで切りぬき、それを貼りつけて作っていましたからね(庄司君)

とはいえ、新聞を発行するまで、会員全員がフル稼働する体制は今も変わっていません。ここでその編集工程を簡単に説明してみましょう。

まず、編集長と副編集長、そして3人のデスクの5名で企画編集会議をして、とりあげるネタと基本的な紙面構成について打ち合えます。続いて全体会議でそれぞれの会員が担当するコーナーを決定。その後、各会員は割り当てられた企画に対してインタビューをしたり、写真を撮ってきたりします。原稿はワープロもしくはパソコンで作成。そのフロッピーを編集長と副編集長が受け取り、マッキントッシュを使ってレイアウトするそうです。「クラブの大会などは休日に行われることが多いので、土日取材、なんてことも多いですね」と言うのは副編集長の松岡啓吾君(電子通信工学科3年)。この“ときには土日返上”という編集努力の甲斐があつてか、現在約1000部発行される新聞は、ほとんどすぐに品切れ状態になるそうです。副会長の藤森孝純君(電子通信工学科3年)は次のように語ります。

「去年までは300出ればいいほうだったんです。潜在的読者数は着実に増えているんですね。この読者を今後もきちんとつかんでいかないと……」

わきあいあいとした雰囲気のおかげ、 さらに武蔵工大らしい紙面作りを目指す

ところで、今年入った1年生はこうした新聞会の雰囲気をどのように感じているのでしょうか? 「入会前にいろんなクラブを回って見たんですが、



▲オールマイティおたく人間、松岡啓吾君



▲寒い冗談がうまい藤森孝純君



▲編集室にて

新聞会

顧問：高田達雄教授
会長：庄司公房(電子通信工学3年)
部員数：16名(内女子1名)

ここが一番わきあいあいとしていました。実際入ってみるとまさにその通り。居心地がいいんですね」(松田祐介君・経営工学科1年)

「人間関係の軋轢はまったくありません。ただ締切に遅れると恐いですが(笑)」(新元宏君・土木工学科1年)



▲足は早い、口は遅い？松田祐介君



▲高校時代は山岳部、今は旅行記事で全国踏破の新元宏君

「みんなで盛り上がってなにかを作るという雰囲気が好きです。飲むとからむ先輩も今のところ発見できないし……」(朝井隆夫君・経営工学科1年)

「遊ぶときは遊ぶ。やるときはやる。そんな先輩ばかり。だからこれからもついていきます(笑)」(小林亨君・経営工学科1年)



▲早飯、早仕度の朝井隆夫君



▲高校からの新聞人、小林亨君

という具合におしなべて好評。ただあえて文句を言うなら、と、新聞会の紅一点、賀来雅美さん(経営工学科3年)は次のように言います。

「せっかく一人しかいない女性会員なんだから、もう少しやさしく接してくれてもいいんじゃないかと(笑)。それ以外については気に入っています」

まあ、いずれにしても、わきあいあいとした雰囲気のなかで、編集作業を続けているのは間違いないようです。

2年前の発刊当時から比べたら認知度は飛躍的に高まり、いまや武蔵工大生に欠かせない情報ツールに育った「MIT-WORK」。



▲紅一点。人気独占。星占いが得意の賀来雅美さん

会としてはこの新聞を、今後どのようなメディアに育てあげてゆくつもりなのでしょうか？

「今までは認知度を高めるために、かなりミーハーに偏った編集方針だったんです。ここらでなにか武蔵工大らしい別の方針を打ち出していけないと……」(松岡君)

「だれが見てもいいものを作る。これからはその辺りに主眼を置きたいです。大学の立場にも学生の立場にも偏ることのない、ニュートラルな視点からの新聞づくりですね」(藤森君)

無の状態から、現在の編集システムを構築し、充実した内容の新聞をコンスタントに発行するようになった新聞会。彼らのバイタリティが続くかぎり、「もっと武蔵工大スピリットを……」という願いは、必ず紙面に反映されることでしょう。

顧問のひとりごと

高田 達雄 (機械工学科 教授)



昭和63年に、今の学生団体連合会(以下、学団連)という組織ができたとき、私は学生部の副部長をしていたんです。それまでは体育会と文化団体連合会があったんですが、それを束ねる

学友会が正常に機能をしていなかったんですね。クラブ運営費も各クラブごとに自力で集めるしかなかった状態……。で、このままでは駄目だ。大学の教育というのは教室の教育はもちろん、課外教育もしっかりしなければ、と、当時学生部長だった佐藤三祿先生(機械工学科教授)と私は考え、課外活動のクラブ全体を総括する組織である学団連創設の手助けをしたわけです。

新聞会は学団連を作る前から一応あったんですが、ほとんど何も発行していない状態だったんです。昔の新聞会は学生運動と密接な関係をしていまして、学生運動の力が衰えると同時に、新聞づくりをするものがいなくなっていたんでしょう。新聞会といえば、学生側の唯一の広報機関ですから、このままなくしてしまえばは支障がある。そこで現会長の庄司君などの新入生を集めて学団連の中に「広報部」という組織を作り、それがいまの新聞会の前身となったわけです。

現在、新聞会が再スタートして2年目ですか。会長を中心によくやっているとしますよ。何しろ先輩がまったくいないところからスタートしたわけですからね。まだまだ素人っぽいところはありますが、それが味となっているのではないのでしょうか。マッキントッシュも導入しましたし、今後、ますます充実した紙面づくりをしてくれるものと期待しています。あえて希望をいうなら、これからは学内の些細な話題にもこだわる、きめの細かい記事作りをしてもらいたいですね。今の3年生がOBとなり、会にもっと興行が生まれたときにどういった新聞を作ってくれるか、今から楽しみにしています。

平成6年度「大学と父母との連絡会」のお知らせ

全国26ヶ所で開催

後援会と大学の共催により平成6年度「大学と父母との連絡会」を下記の26会場で開催します。大学側から教職員の方が出席され、教育方針や現況等について説明していただくと共に、在学する子弟の修学および学生生活上の諸問題について懇談することを目的としております。奮ってご出席ください。

●平成6年度「大学と父母との連絡会」日程および会場

開催地	開催日	開催時間	会場と所在地（電話番号）	備考
函館市	9月9日(金)	10:00～12:30	函館ハーバービューホテル(4階 橋) 函館市若松町14-10 (0138-22-0111)	
札幌市	9月10日(土)	10:00～12:30	札幌ステーションホテル(2階 丹頂の間) 札幌市北区北七条西4-2-2(011-727-2111)	
秋田市	9月4日(日)	10:30～13:00	アキタスカイホテル(鳥海の間) 秋田市大町2-2-3 (0188-62-0501)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
仙台市	9月3日(土)	10:30～13:00	仙台ガーデンパレス(宮城野) 仙台市宮城野区榴岡4-1-5(022-299-6211)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
郡山市	9月3日(土)	10:30～13:30	チサンホテル郡山(磐梯A) 郡山市駅前1-8-18 (0249-23-6711)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
宇都宮市	9月4日(日)	10:30～13:30	関東チサンホテル宇都宮 宇都宮市駅前通り3-2-3 (0286-34-4311)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
水戸市	9月5日(月)	10:30～13:30	三の丸ホテル(かわせみの間) 水戸市三ノ丸2-1-1 (0292-21-3011)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
東京都	9月25日(日)	11:30～15:30	武蔵工業大学 東京都世田谷区玉堤1-28-1(03-3703-3111)	
高崎市	9月3日(土)	10:00～12:00	高崎ターミナルホテル(6階 せきれいの間) 高崎市八島町222 (0273-25-3311)	
新潟市	9月4日(日)	10:00～12:00	ホテルイタリア軒 新潟市西堀通7番町1574 (025-224-5111)	
松本市	9月3日(土)	10:00～12:00	松本東急イン(花梨A) 松本市深志1-3-21 (0263-36-0109)	
甲府市	9月4日(日)	10:00～12:00	古名屋ホテル(8階 スカイラウンジ) 甲府市中央1-7-15 (0552-35-1122)	
富山市	9月4日(日)	10:30～13:30	富山エクセルホテル東急(会議室 ロワール) 富山市新富町1-2-3 (0764-41-0109)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
金沢市	9月3日(土)	10:30～13:30	金沢東急ホテル(松風の間) 金沢市香林坊2-1-1 (0762-31-2411)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
静岡市	9月3日(土)	午前の部 9:30～12:00 午後の部 13:30～16:00	サンパレスホテル(2F シャインパレス) 静岡市南町11-29 (054-282-2277)	
浜松市	9月4日(日)	9:30～12:00	浜松サゴイン(1階 会議室) 浜松市海老塚2-3-1 (053-456-3511)	
名古屋	8月27日(土)	10:00～12:00	名古屋東急ホテル(4F 舞の間) 名古屋市中区栄4-6-8 (052-251-2411)	
大阪市	8月28日(日)	10:30～13:00	東洋ホテル(2F 寿の間) 大阪市北区豊崎3-16-19 (06-372-8181)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
岡山市	8月25日(木)	10:00～13:00	岡山東急ホテル(3階 旭の間) 岡山市大供3-2-18 (0862-33-2411)	食事会方式となりますので当日、食事代として3000円を徴収させていただきます
広島市	8月26日(金)	午前の部 10:00～12:00 午後の部 13:30～15:30	三井ガーデンホテル(3階 白鷺の間) 広島市中区中町9-12 (082-240-1131)	
小郡市	8月27日(土)	10:00～13:00	山口グランドホテル(3階 パール) 山口県吉敷郡小郡町黄金町1-1(08397-2-7777)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
松山市	8月27日(土)	11:00～13:30	ホテルサンルート松山(芙蓉北) 松山市宮田町391-8 (0899-33-2811)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
高知市	8月28日(日)	11:00～13:30	ホテルサンルート高知(芙蓉東) 高知市北本町1-1-28 (0888-23-1311)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
福岡市	8月27日(土)	10:00～12:00	ホテルステーションプラザ 福岡市博多区博多駅前2-1(092-431-1211)	
別府市	8月28日(日)	10:00～12:00	日伯ホテル 別府市北浜3-12-26 (0977-23-2291)	
那覇市	7月17日(日)	11:00～14:00	那覇東急ホテル(11F 海の間) 那覇市天久1002 (098-868-2151)	食事会方式となりますので当日、食事代として1000円を徴収させていただきます